

アメニティの機関紙

アメニティの機関紙
第2号
2004年12月20日発行
日本生理人類学会
資格認定委員会

機関紙「アメニティ」も第2号の発刊となりました。本年も予定どおり生理人類士資格認定試験が、11月27日に1級の面接試験が学会事務局で、また、12月4日には準1級と2級の筆記試験が各指定校において開催されました。毎年のことではありますが、資格認定制度の各指定校責任者を務められている諸先生方のご協力にはいつも深く感謝しております。当方も武藏野大学の指定校責任者としてその任を務めておりますが、仕事の大変さを痛感しております。

ところで、受験日が近づきますといずれの指定校においても指定校受験申請者を主対象とする受験講座が開催されることとなり、当方大学でも毎年この受験講座を開催しております。この講座においてテキストの解説をする中でいつも思いますことは、出席される受験希望者の方々が皆真剣な眼差しで講座を受講されておられることです。特に、当方大学では昨年より通信教育部が指定校に追加認定され、今年度は36名もの通信教育部の学生が受験を申請され、その多くの方々が講座にも参加されました。大半の学生が社会人なのですが、夜9時まで続く講座に毎回に亘って出席され、中には、新潟地方から地震で新幹線が使えないにも拘らず、5時間近くもかけてわざわざこの講座に出席された方もおられました。このように、真剣に講座を受講されるたくさんの方々がおられることを知ると、なんとしてもそのような方々の期待に答えられるような講座にしたいという気持ちが益々強くなりますし、自らへの励みにもなります。そして、この資格認定制度を発足させた日本生理人類学会の社会的責任の重さを実感すると共に、試験に合格される方々のこれから益々のご活躍を心から願わずにはいられません。資格認定制度には直接係わっておられない学会関係者の方々もこのような方がおられることをご理解下さり、指定校拡大や資格認定制度のさらなる充実のために是非ご協力・ご支援くださいますようよろしくお願ひいたします。

2004年12月
資格認定委員会委員長
橋本 修左

生理人類士の声

今回は、生理人類士1級（アメニティ プランナー）と準1級（アメニティ コーディネーター）取得者の方から記事をいただきました。

2000年生理人類士1級 前田亞紀子さん（長野県短期大学）

「災害とアメニティ」

新潟県中越地方地震による被災者の方々の避難生活は、アメニティとは程遠い状況にある。災害発生当時（10月下旬）、既に新潟は夜間の冷え込みが厳しく、苦労の多いこと誠に心痛極まりない状況であり、心よりお見舞い申し上げます。さて以前、私たちは年間を通して、露天、テント、乗用車、軒下などにおける各種環境測定を行った。ちょうど阪神淡路大震災の直後であり、これが動機となったものである。はたして日内最低気温は露天において最も低く、乗用車やテントでもこれに近似した値であった。軒下とは、ビル2階の壁面が50cmほど窪んだ屋根付きの外部環境であり、ここが最も快適な数値を示した。つまり身体保護のシェルターとしての役割は、布や金属で覆われるより、できる限り建造物に身を寄せる方が快適であるといえる。しかし、断続的に大きな余震が続いた今回では、家屋の復旧や仮設住宅の建設が進まず、体育館など公共施設での生活が長引いた。過密環境下での共同生活やプライバシーの欠如はストレスの最大要因であり、多くの人が屋外での自動車等の狭小個室を選ばざるを得ない状況となり、新たにエコノミー症候群の発症が災害の弊害として取り上げられた。悪循環を少しでも緩和あるいは除去するため、生理人類士の方々が、それぞれの分野から災害時をはじめとしてアメニティに関するノウハウを蓄積して行くなら、これから社会に大きく貢献することであろう。

2000年生理人類士準1級 芦野理恵さん（千葉大学大学院自然科学研究科）

「生理人類学における「アメニティ」研究」

生理人類学という言葉を初めて知ったのはわずか4年前。私は現在ヒトの自律機能応答における複合環境評価に関する研究を行っています。近年建物はそのデザイン性が重視されるあまり、高度な技術により人工化された環境とそこに居住する者への生理心理的影響から要求される環境との間に不均衡が生じていると考えます。私は生理人類学の考え方を基盤として、ヒトの環境への適合度をみていくことで現代に暮らす人のより良い生活（アメニティ）について考えてきたいと思っています。

「アメニティ」という言葉を広辞苑で調べると、「都市計画などで求める建物・場所・景観・気候など生活環境の快適さ」と書かれています。生理人類学におけるアメニティは、人間生活そのものの心地よさ、快適さを意味すると考えます。

4年前「人間のメカニズムをやるなら・・・」と現在の研究を始めるきっかけを下さった先生方に感謝しつつ、今後も生理人類学におけるアメニティを模索しながら研究を続けていきたいと思います。

2002年生理人類士1級

石橋圭太さん（九州大学大学院芸術工学研究院）

「生理人類学士取得のための傾向と対策」

生理人類学士1級の口頭試問では、事前に小文を提出する必要がございます。当時（2002年）の私もこの課題をあたえられ、あたまをひねっておりました。お題は「私と生理人類学について」というものでした。普段、特に意識したこととなかったので、まさしく藪から棒でございました。当時の文章を掘りおこして見ますと、良くぞこれで通ったものだと自分自身感嘆しております。不肖の新参者の言葉足らず舌足らずのところを審査員の先生方が暖かくご配慮してくださいましたからこそと感激をあらたにしております。以下は当時の文章のままでございます。今となっては恥ずかしい限りではございますが、何かのご参考になりましたら幸いでございます。

「私と生理人類学について」

残念ながら、もともと私は生理人類学が好きだったわけではありませんでした。間違って始めたといった方が実体に即しているように思います。学生だった時に生理人類学の初步を学びましたが、生理人類学はそれで簡単に理解できるような代物ではありませんでした。卒業してからもう一度はじめることにしたのは、始めからやりなおせば、少しあはわかるようになるかと思ったからであります。それは間違いでした。やってみると際限がありません。乗りかかった船でもう止められません。

では、つまらないかというと、もちろん、そんなことはなく、ここ数年は面白くて仕方ありません。しかし、面白いからといって業績があがるというものでもないようで、頭のいたい問題です。それに、だんだん暇もなくなっております。大学からお給金を頂くようになってから、ますますいろんな用事で時間をとられます。もちろん、生理人類学研究のため雑事は一切お断り、というほど生理人類学を尊敬してこなかった自分に非があるのはいうまでもありません。

以前は、学問を尊敬している先生が、今より多かったように思います。研究に没頭していく日露戦争を知らなかったという方もいらっしゃったと聞きます。しかし、生理人類学についてを客観的に考えるためにも、生理人類学という対象をむやみに尊敬してはいけないような気もします。

ここ数年、生理人類学は過渡期にあると、勝手に考えております。それは以前よりもより人類学的視角が強まろうとしているところにあります。進化生物学者エルンスト・マイアの著書にある、ばらつきは誤差でなく実体としてあつかうべきものであるという氏の主張は、ここ数年、生理人類学でもやはり注目されているように思います。私は生体反応からヒトの特性について、主に心電図を使ったりして研究してきましたが、性差あれ、個人差あれ、ばらつきを無視して平均値のみでは、ヒトの実態に迫れないような気がしております。生理人類学は、このヒトの生体反応のばらつきを扱う学問分野であると考えております。今後、この学問を通じて、さらなる精進を重ねたいと考えている次第であります。

「生理人類士」資格認定者数

	1級 アメニティプランナー	準1級 アメニティコーディネーター	2級 アメニティスペシャリスト	総計
2000	6	5	24	35
2001	3	5	86	94
2002	3	16	134	153
2003	0	5	95	100
計	12	31	339	382

2003年度「生理人類士」認定者

1 級（アメニティプランナー）

受験者なし

準1級（アメニティコーディネーター）

立川公子 池永千鶴 高倉裕美子 馬場正実 松川佳代子

2 級（アメニティスペシャリスト）

斎藤由美子 鈴木聖子 本間恵美 安部文馨 岩井恵理子 櫻井典子 清家美奈 船田恵美 松木祥子 宇都宮令子 宮崎郁子 古谷裕子 増子莉紗 大久保愛 木村暁子 萩原敦子 今内理恵 鳥畠百恵 藤井あゆみ 藤川万喜子 柳井田春奈 尾又麻美 川上朝子 小林瑠美 田久保瑞穂 矢崎朋子 高橋日子 小林千恵 松岡秀一 関川陽介 加藤春泉 金津よし子 栗原由佳 合使有美 坂江まゆこ 佐藤加奈 嶋崎佳代 庄司亜希子 神保聰子 杉山珠理 鈴木梓 武井恵里 竹内清香 野尻佳代子 野田貴美 堀若菜 松岡美鈴 水川直美 矢野寛子 上口秋恵 阿部千春 池田理恵 石橋成香 石橋真理子 稲吉美穂子 井上聖子 上園美紀子 梅崎聰子 梅田光枝 江島菜津美 大田由香利 岡村優 小川陽子 甲斐圭美 加藤優子 加納真美 川原ゆかり 木原善美 切通良栄 黒木可南子 近藤麻絹 堀八重子 沢田美穂 実松美樹 白土陽子 住田知美 岳尾麻美 田代咲子 田中希実 鶴崎可奈子 富永小百合 鳥越春香 永尾礼乃 中村さや香 西嶋眞里 廣瀬さやか 本田佳名子 每熊久美子 松尾直美 宮寄とも子 村田理恵 森下真紀子 森永久美子 吉川香奈子 渡邊良子

投稿記事大募集！

生理人類士を取得された皆様へお願い

生理人類士を取得し、その後どういう仕事を行っていますか？生理人類士として、社会で活躍されている方の経験談や、生理人類士の資格をどのように生かしているかについてなどを、「アメニティの機関紙」への投稿を大募集いたします。下記事務局宛まで投稿原稿をE-mailで送っていただぐか、FDにテキスト形式で入力したものを郵送してください。

今後、このアメニティの機関紙を生理人類士同士の情報交換の場として御活用いただければ幸いです。

<生理人類士認定委員会事務局および問い合わせ先>

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 (株)国際文献印刷社内
TEL: 03-5389-6218 FAX: 03-3368-2822 jspa-post@bunkan.co.jp